

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	第4670105206号
法人名	社会福祉法人 恵心会
事業所名	清谿園 グループホーム どんぐり
所在地	〒 891-0105 鹿児島市中山町5217番地 (電 話) 099-264-6600
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年3月15日

【情報提供票より】(22年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 31日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 16 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 入居者の概要(2月10日現在)

入居者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほりのうち内科
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

谷山の閑静な住宅地に建ち、ウッドデッキとみどりに囲まれた落ち着いた雰囲気なたたずまいのホームである。運営者は職員の意見に耳を傾け、介護技術や人権擁護等の研修を充実させている。それによって、職員個々の質が向上し業務の余裕を生み出している。昨年は協議会で「運営推進会議と地域のふれあい」をテーマに発表し表彰をうけ、管理者、職員の自信につながっている。これらの余裕や自信は入居者や家族に伝わり、ホーム全体の安心感がより強まり家族のような信頼関係が構築されている。また、魚市場のセリ権を取得するなど、入居者によりよいものを提供しようとする姿勢がうかがえる。さらに近隣の住民に運営推進会議に参加してもらい協力をもらっている。法人内には特別養護老人ホームやデイサービス等が運営され、入居者、家族の安心につながっている。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の結果は職員ミーティングで改善事項について、できることから改善するように話し合い、評価結果はコピーを家族に配布し共有理解に努めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員で研修を行い、内容を理解するとともに、自己評価を全員で話し合い作成している。その作業は職員が外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になったと認識している。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催され、町内会長、老人会長、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、近隣の住民などの参加がある。事業所行事等の報告のみではなく、参加者より地域での勉強会開催等の提案の意見やその他助言が出されるなど有意義な会になっていることが議事録より確認できる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年に1回家族会を開催し、日ごろから職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めている。また訪問時の会話の中から要望や苦情を汲み取り、それらを個人毎の送りノートに詳細に記入して、出された要望や苦情は、職員で改善にむけて話し合い運営に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、回覧板の受け渡しや地域の清掃活動、小学校のあいご会への協力、校区文化祭やコンサートの出演参加など地域との交流がある。ホーム来訪の小中学生、高校生、幼稚園・保育園児との交流は業務日誌を活用し、様子や感想を細かく記録している。また、近隣の住民から花や野菜の差し入れがあったり、防災訓練に協力してもらったり、地域と良い関係をつくっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が安心して生活できる家づくりを目指している。また「地域の方とのふれあいを大切にともにくらしていきましょう」という文言があり、地域と密着したホーム作りを理念としている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が常に意識できるよう事務室やリビングに→掲示している。日々の実務にてらし、朝夕の申し送り時や研修時に目指すホームにむけて話し合い実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の1員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板の受け渡しや地域の清掃活動、小学校のあいご会への協力、校区文化祭やコンサートの出演参加など地域との交流がある。ホーム来訪の小中学生、高校生、幼稚園・保育園児との交流は業務日誌を活用し、様子や感想を細かく記録している。また、近隣の住民から花や野菜の差し入れがあったり、防災訓練に協力してもらったり、地域と良い関係をつくっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で研修を行い、内容を理解するとともに、自己評価を全員で話し合い作成している。昨年の結果は、職員ミーティングで改善事項についてできることから改善することを話し合い、評価結果は、コピーを家族に配布し)共有理解に努めている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、町内会長、老人会長、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、近隣の住民などの参加がある。事業所行事等の報告のみではなく、参加者より地域での勉強会開催等の提案の意見やその他助言が出されるなど、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に介護相談員の受け入れを行い、頻繁に市担当窓口や福祉事務所などへ事務手続きやその他の機会に訪問し情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真と利用者の暮らしぶりを記載した個人毎の書面を毎月発行し、家族に状況を知らせている。職員の異動については面会時や運営推進会議で報告し、金銭管理については、面会時に確認してサインをもらっている。利用者の健康状態に変化があった時には、そのつど電話などで家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催し、日ごろから職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めている。訪問時の会話の中から要望や苦情を汲み取り、それらを個人毎の申送りノートに詳細に記入している。出された要望や苦情は、職員で改善にむけて話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は、利用者へ説明し混乱を防ぎ、三ヶ月ほどの引継ぎ期間を設けるなどの配慮をし、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の資格取得方針や計画、勉強会があり、施設外研修は管理者が職員に紹介し、勤務の調整や受講費の法人負担など、積極的に支援をしている。受講者は、レポートを作成し職員会議などで伝達を行っている。職員自身と話し合い、個人習熟度に応じた具体的な研修計画を立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区のグループホームで勉強会等行われており、職員が勉強会、交流会へ参加し相互に支援し合っている。また、別法人の近隣ホームとの入居者、職員と相互交流も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にはできるだけホームの体験をしてもらい、見学に来られない方には、管理者が出向いて顔なじみの関係を作るような取り組みをしている。また、関係機関からのサマリーをもとに、場に馴染めるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される1方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考えをスタッフ全体が共有し、色々な場面で利用者に助言をもらいながら生活している。調理準備や畑仕事、洗濯物たたみを職員とともに行う中でお互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 1人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 1人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話しに傾聴し、日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族へのお便りや訪問時を利用して家族と話し合い、「私の姿と気持ちシート」を活用するなど本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に本人や家族、職員と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく、日常的に行うようにしている。またかかりつけ医にリハビリ指導書を介して、確認してもらい、助言を受けて、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行っている。また三カ月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しの必要性を全職員で検討している。	○	日ごろの介護を計画に結びつけるためにも、月に1回は新鮮な感覚で評価を行い、書面として残しておくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物の支援や通院介助、外泊支援、墓参り等の特別な外出支援、退居者・待機者への声かけや安否確認、相談など臨機応変な対応をしている。遊びの中のリハビリを理念に訪問リハビリを導入したり「運営推進会議と地域のふれあい」をテーマに職員が協議会等で発表し表彰をうけている。		
たい					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診、受診、通院介助の対応をしている。利用者及び家族の希望を大切に、その上で日常記録を提供し、協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する方向性をサービス利用開始時に家族に説明し同意をもらっている。過去に看取りの事例があり家族、医師等と話し合いながら全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)1人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 1人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	リビングに個人情報の保護方針や利用目的についての掲示があり、記録等は、外来者の目に触れないように事務室に保管している。職員研修も行われ、入居者への日頃の声かけについては、個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、1人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。本人の外出・着衣・理美容などの選択を支援し、その人らしい暮らしができるように配慮している様子がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、1人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、テレビ番組やチラシを活用しメニューを利用者と相談しながら決めている。2日に1回の買い物や調理・片付けなど能力に応じてしてもらい、職員も同じ食事を同じテーブルでとることと和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。また、新鮮な魚介類を食べてもらえるよう魚市場のセリ権を取得するなど食生活の向上に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、1人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴は、可能であり、利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。入浴を拒まれる場合は、時間をあけて誘ったり、ゆず、フキ、ヨモギ、みかん等の入浴剤を使用したり工夫して気持ちよく入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、1人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や後片付け、洗濯、料理教室、工作、畑作業、裁縫、ジグソーパズル、おかしや漬物作りなど、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとを見つけ出し、支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、1人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や天候に応じて、食事の買い物や散歩、ウッドデッキでの日光浴、畑作業、ドライブなど日常的に外出の機会を設けている。また、地域の清掃活動、行事等への参加も支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの主旨を家族や本人に説明し、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、利用者の状態を把握し、外出傾向がある場合はさりげなく一緒に散歩にでるなどの支援をしている。また、職員は研修や身体拘束委員会に参加し意識の向上を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練や消火訓練を定期的に行うとともに、風水害を含めた緊急時のマニュアルを作成し、応急手当などの研修にも取り組んでいる。地域住民には、パンフレットを配布して理解を呼びかけ、協力して災害対策を行う体制を整えている。非常災害時の備蓄もあり、職員の気づきにより非常口を新しく設けるなど災害に対する意識が高い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が1日を通じて確保できるよう、1人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は個人別に記録され、排泄状態も参考にしながら健康状態を把握している。嚥下には、ミキサー食やきざみ等の工夫を行っている。献立は利用者と話し合い、給食日誌も活用し月に1回管理栄養士に確認をしてもらいアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、絵画や花が飾られ、リビングや畳スペースは、思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは、日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がある。居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷きとフローリングの部屋がある。家族とも相談し一人ひとりの希望や状況に応じてジグソーパズル、家具、タンス、椅子、テレビ、こたつなど馴染みのものが持ち込まれ、居心地のよい空間となっている。		